

# 第16回 先端医療センター Monthly Lecture

多くの研究機関や関連企業が集積し、クラスターとしての体制が整いつつある神戸医療産業都市における次の課題は、意見交流の場を様々な形でつくりだし、関係者の縦横の協力関係を構築し、最近の研究開発をめぐる大きな変化に対応する体制を作り上げることです。その一つの試みとして、優れた研究者による講演会を定期的で開催し、交流、協力関係構築のきっかけを提供したいと考えております。

学会や交流会は盛んに行われており、最新のトピックスを伺う機会には豊富にありますが、優れた研究者の一連の研究の歩みや領域全体の研究の流れを伺う機会は多くはありません。そこで、本レクチャーシリーズでは優れた研究者をお招きし、十分な時間を取って一連のストーリー、考え方、研究に対する思い入れをお話しいたします。

先端医療センター長 鍋島 陽一

## 日時・場所

2013年1月21日（月）15:30～17:30  
臨床研究情報センター（TRI）第1研修室 ※参加費無料



■講師 本庶 佑 先生 京都大学大学院医学研究科 客員教授  
静岡県公立大学法人理事長

■演題 獲得免疫 ゲノム不安定性 発ガン

## ■講演内容

獲得免疫が誕生することによって、脊椎動物の寿命は飛躍的に延び、その身体の大きさもまた大きくなった。獲得免疫がなし得たことは微原体特異的な認識を行い、病原体の感染を防御するために特異的抗体を作ることである。そのためには、遺伝子変異の頻度が10<sup>-3</sup>～10<sup>-4</sup> / bp（通常の105倍）という驚くべき頻度で起こることが必要となった。

このような変異をBリンパ球に特異的に引き起こすしくみはひとつの酵素（AID）が生まれただけでは不可能である。この遺伝子変異はそれまでに長く生命体が持ってきた進化に不可欠なゲノム不安定化のしくみを一層効率化することによってもたらされたと考える。しかしながら、同時にこのしくみはあまりにも高頻度の変異を引き起こすために、発ガンの危険性と裏腹の関係となった。獲得免疫による感染防御と発ガンとが裏腹の関係になっているということの進化的な意味を考えたい。

## ■お申込み

◎参加を希望される方は、事前にEメール ([zaidan-info@fbri.org](mailto:zaidan-info@fbri.org)) にて、お名前・ご所属・メールアドレスをお知らせ下さい。

◎当日参加の方も歓迎です。

◎事前申込をいただいた方には、今後の「先端医療センターMonthly Lecture」のご案内をはじめ、当財団からのシンポジウムや講演会等のご案内をお送りさせて頂きたく存じます。連絡不要の方はお手数ですが、その旨お知らせください。

## ■お問い合わせ先

Mail:[zaidan-info@fbri.org](mailto:zaidan-info@fbri.org)

TEL:078-306-0708